

受講番号 18092 学校名 大正中学校 氏名 山崎 誠

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 第2学年 生徒数 35 名
 科目名 第2学年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 “SUN SHINE ENGLISH COURSE 2” (開隆堂)

クラスの様子・特徴

おおむね真面目な態度で授業を受けることができる生徒たちであり、ペアワーク等には楽しそうに意欲的に取り組むことができる。クラス内の人間関係に改善の余地があり、そのことから、挙手をして皆の前で発表したりすることは苦手である。

問題の確定

生徒は書くことが苦手であるが頑張りたいという意識を持っている。その最も基礎になる語彙力を高める必要がある。

予備調査

A 授業の観察

おおむね真面目な態度で授業を受けることができ、ペアワーク等にも意欲的に取り組んでいる。挙手をして発表しようとする生徒は数名に限定され、その数も少ない。辞書(教科書の巻末のもの)を使うことを苦手としている生徒が多い。

B 生徒による授業評価

「読むこと」「書くこと」「話すこと」「聞くこと」では「読むこと」(32%)、「聞くこと」(35%)が楽しく、「書くこと」(47%)を難しく感じている。しかし、そう思っている全員が「書くこと」を頑張りたいと思っている(47%)。

C 学力データ

昨年度1月実施のCRTでは、各領域ほぼ全国並みであるが、「文字等の知識を身につける」が全国比80であった。今年度5月に実施したNRTでは、「基本的な単語や英文を書くこと」が全国比64であった。

リサーチ・クエスチョン

新出重要単語を定着させるためにはどのような指導を行えばよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

各セクションごとに新出単語の「読み方」、「意味」、「意味を見て英語が言えるか」をペアワークを行って確認しあうことで、より定着しやすくなるのではないだろうか。

実践1

(11月～12月)
 フラッシュカードを使って全体で新出単語の読み、意味、綴りを確認したあと、「単語」、「読み方」、「意味」を一覧にし、それぞれ覚えることができたかどうかのチェック欄があるプリントを配布した。それを使ってペアで再度読み、意味、綴りを確認した。その後プリントを交換して新出単語の「読み方」、「意味」、「意味を見て英語が言えるか」チェックをした。

検証1

(12月)
 新出単語の「読み方」、「意味」、「意味を見て英語が言えるか」の確認が、個々の活動では前に進みづらくなる生徒が、ペアでの活動にすることで、主体的に取り組めるようになった。12月に行ったアンケートでも94%の生徒が役に立つ活動だったと評価した。

仮説2

単語テストを行い、「覚えなければならぬ」という意識を持たせれば、覚える活動が習慣化し単語の定着につながるのではないだろうか。

実践2

(5月～12月)
 不規則動詞の過去形や、セクションごとの新出単語のテストを行った。問題数は5問、または10問として、日本語を英語に、または英語を日本語に直す形で実施した。単元テストの前にはプログラム全体の単語テストを行った。

検証2

(12月)
 セクションごとのテストの平均点は83点であった。プログラム全体のテストでは平均点は84点になった。ある程度は基本的な単語が定着できたのではないだろうか。期末テストにおいては、1学期には45点であった平均点が2学期には57点に上がった。継続してテストを行うことで、テスト前まで単語を確認するような意欲的な面が見られるようになった。

仮説3

生徒が充実した家庭学習を積み重ねることができるような資料や、助言を与えれば定着につながるのではないだろうか。

実践3

(5月～12月)
 家庭学習の資料としては、授業中に配布した新出単語の綴り、読み方、意味を一覧にしたものを配布し、それを家庭学習の中でも活用するように助言した。家庭学習では同じ単語を何ページも続けて書く、日本語は書かずただ英語だけを書く、一行に書く回数が少ない、宿題を提出しないといった生徒には積極的に声かけを行った。

検証3

(12月)
 12月のアンケートでは、授業の中で配布した新出単語のプリントが役立ったと評価した生徒が94%いた。家庭学習の中身を見ても発展的な学習ができる生徒が増えてきた。注意しても繰り返し同じ単語を何ページも書いてくる生徒も声をかけると改善するようになってきた。

研究の成果

内容についてはまだまだ改善の余地があるが、単語に焦点を置いた資料を渡すことで、授業の中で語彙力を高める活動に生徒が意欲的に取り組むことができ、家庭学習にも積極的に取り組めた。単語テストでは80%以上の正解率があり、期末テストでは1学期に比べて12点平均点が上がるなど、ある程度の効果はあったのではないかと考える。生徒による授業評価を見ると1学期には68%であった「A」、「B」の評価が2学期には81%に向上したことは大きな成果である。

今後の授業改善の課題

全体的な点数を見てみるとある程度の効果はあり、多くの生徒が肯定的に受け止めてくれているが、単語テストの結果では全ての生徒の結果が満足いくものであったわけではない。個々の生徒が必要としている支援を見極め、生徒にあった助言、やる気を持って取り組めるような助言を与えていきたい。仮説3の検証は数値化しづらく十分なものにはならなかった。効果的な家庭学習の指導助言方法を考えていく必要がある。